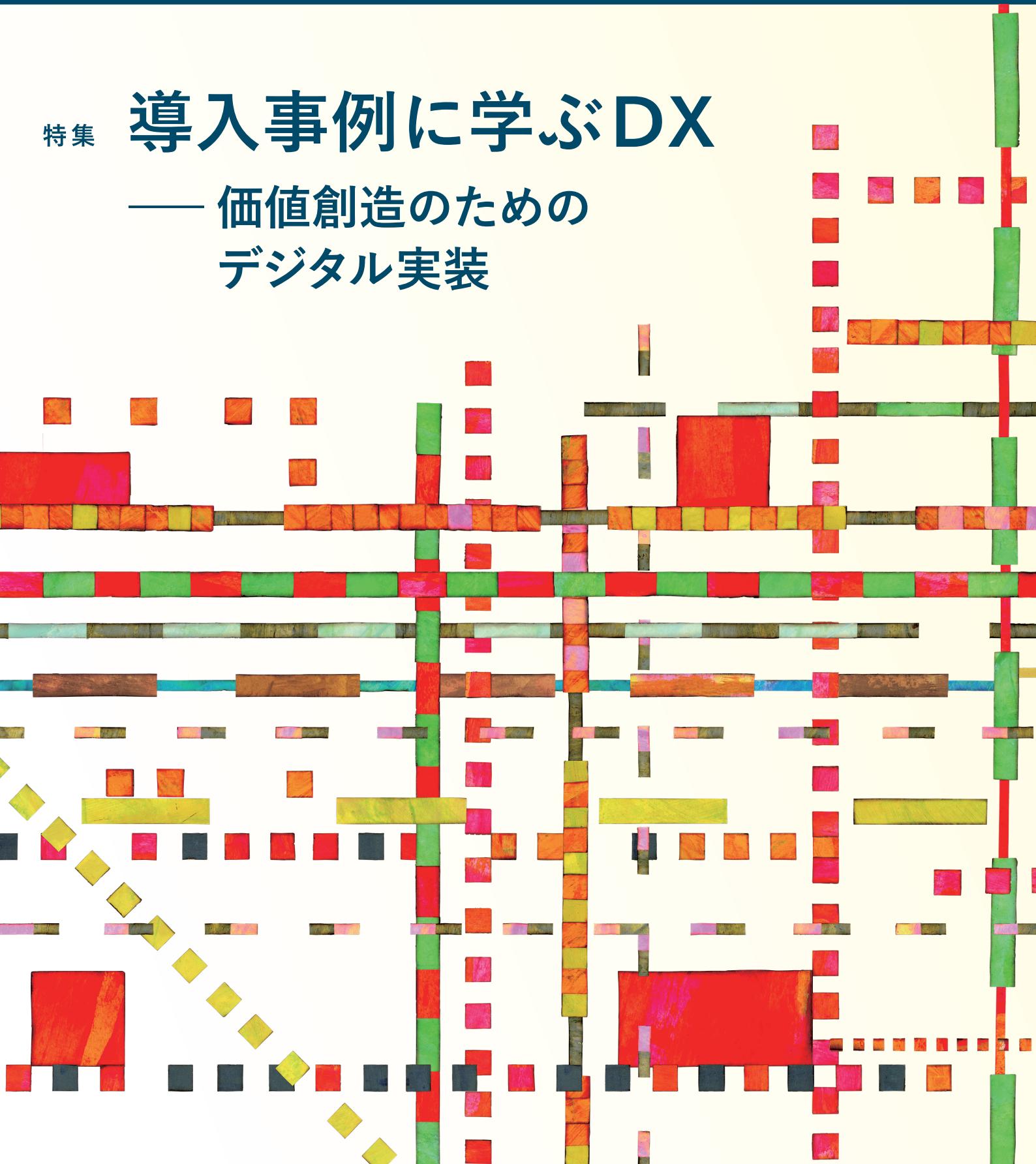
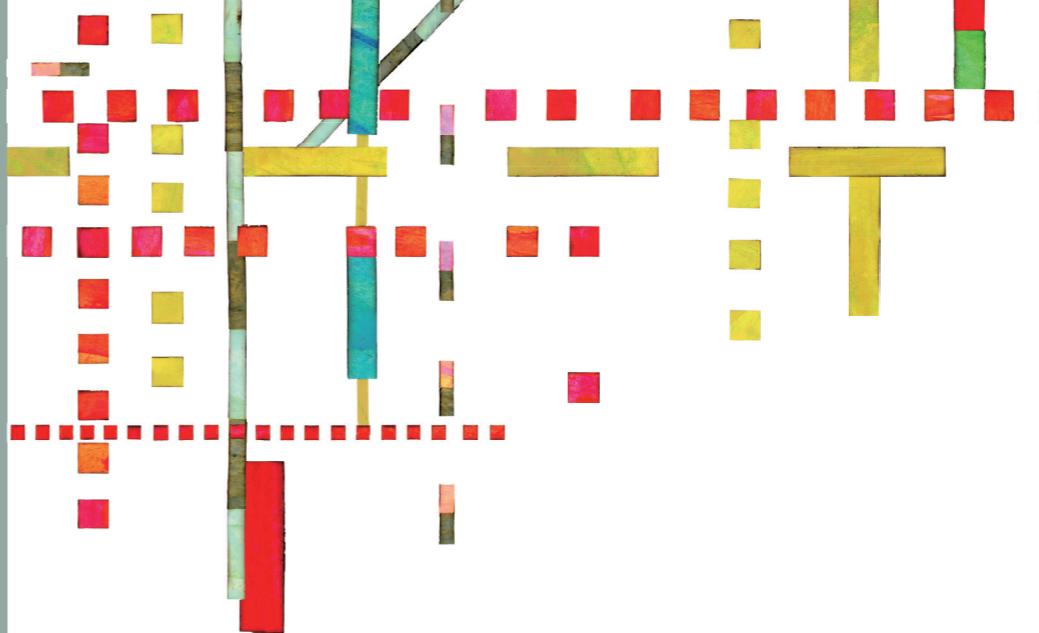


特集

導入事例に学ぶDX

— 価値創造のための
デジタル実装



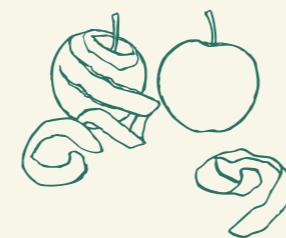


ふろろーぐ

霸權

株式会社インターネットイニシアティブ
代表取締役会長執行役員

鈴木 幸一



新しく女性が首相になり、新聞社から何かコメントを書いて欲しいと連絡があった。戦後すぐの生まれで、すでに高齢者となっているうえに、政治家との付き合いもなくなっている私でも、首相が交代し、女性が首相に就任したことくらいは耳に入っていたのだが、改めて何か書くほどの思いがあるわけでもない。端的にお断りをするのも失礼なので、掲載しようもない小文を書き送った。小文はどこかに消えてしまったに違いない。

「私がインターネットの存在を知ったのは一九六八年、米国がベトナム戦争の泥沼から抜け出せず、国民のコンセンサスが壊れるのではないかという深刻な時代だった。そんな状況にあって、通信の基本となる技術が、電話からコンピュータ・サイエンスに代わっていくだろう」という予見を明確にしたプレゼンテーションが、のちにシリコン

バレーと呼ばれる西海岸で行なわれた。私は、『プレイボーイ』だったか、『ローリングストーン』だったか、そんな類の雑誌で知り、以後、関心を持ち続けたのである。

米国は「インターネット」という通信分野に生じた二〇世紀最後の巨大な技術革新と、新たな金融市場のインフラを牛耳ることで、二一世紀に再び、霸権を握るのだという強い意志を貫いた。日本人としては、米国の霸権奪回の政策を比較的近くで見ていたのだが、その間、日本の政治家や学者は、米国の政治的というか、国防的な視点での堅固な意志について関心を示さなかつた。インターネットに強い興味を持ち続けたのは、ユニックスというコンピュータのマルチタスク、マルチユーザのオペレーティングシステムを導入しようとしていた専門家だけだった。

そんな内容の小文は、この半分くらいの長さだけ、日本で女性が初めて首相になることに対するコメントという要望に対し、まったくピントがはずれた小文である。なぜこんな小文を書いてしまったのかといえば、日本には似た企業がないと云ふほかないかの歴史と関係する。米国は二一世紀に、通信（インターネット）と金融において再び世界の霸権を握り、世界の中心になろうという明確な国策を掲げ、私のようなものにまで声をかけて、議論をさせた。そんな米国と日本の、あまりにも対照的な違いに危惧を抱き続けてきたことが、新たな総理の誕生ということに対して、私の感情を刺激したのかもしれない。インターネットは、巨大なビジネスを生み続いているが、当初から、極めて重要な軍事技術であることに変わりはない。

3 ふろろーぐ 霸権／鈴木 幸一

4 Topics

導入事例に学ぶDX — 価値創造のためのデジタル実装 —

- 6 DX成功に向けて／北村 公一
- 8 現場が直面するマルチクラウド活用における諸課題／井ノ川 俊次
- 10 事例1 住商グローバル・ロジスティクス株式会社
IIJの無料ワークショップでセキュリティを可視化して対策の鮮度をチェック
- 13 事例2 株式会社琉球銀行
ITスキルの向上と意識変革の両面からデジタル人材の育成を図る
- 16 事例3 サンデン・リテールシステム株式会社
AWSアカウントの乱立を整理、オンプレミスからの移行とマルチクラウド運用
- 19 事例4 ぴあ株式会社
一元的なデータ活用プラットフォーム実現のため複数システムと顧客情報DBを自動連携
- 22 事例5 株式会社ふくおかフィナンシャルグループ
生成AIで新たなビジネス価値を創出。社内業務にも活用し金融DXを推進
- 25 事例6 清水建設株式会社
二万人以上を支える認証基盤の更改でゼロトラストを推進し、現場のITセキュリティを強化
- 28 IIJ Research となりの情シス 全国情シス実態調査2025
- 30 人と空気とインターネット 「交換様式D」へ向けたAIの設計／浅羽 登志也
- 32 サステナ・レポート 家族と仕事、どちらも大切にできる職場へ／川上 かおり
- 33 インターネット・トリビア AMラジオがFMに移行／堂前 清隆
- 34 Information 表紙の言葉 編集後記
- 35 車いすフェンシング 笹島貴明の“Allez(アレ)！”／笹島 貴明

導入事例に学ぶDX

——価値創造のためのデジタル実装

DX (Digital Transformation) が、データとテクノロジーをフル活用して、自社の業務を改善すると同時に、ビジネスモデル全体を変革しようとしている。ただ、変化のビジョンが流動的で、その速度も急激なため、デジタル戦略が思うように描けていない企業も多い。IIJはインターネット関連サービスを軸に、安心・安全なビジネスソリューションを提供してきたが、近年はこのパラダイムシフトに応すべく、独自のデジタルトランスフォーメーションプラットフォーム (DXP) を開発・提唱している。今回は、企業の導入事例を通じて、新たな価値創造に向けたIT活用のヒントをお届けする。

ガバナンス

「必要なリソース」を「必要な人」が「必要な権限」で利用できるよう、IDやSaaSなどを適切に管理・運用

導入(計画・構築・移行)

クラウドの利用計画・構築、システム移行、さらにはAI導入までをカバーするIT基盤の提供

セキュリティ

多様な働き方や要件を叶えるために、安全かつ快適なアクセス環境を整備

ビジネス戦略・計画

ビジネスシーン・戦略に合わせたクラウド活用を、目的や課題の整理から計画立案まで支援

組織・人材

組織の人材がどのようなDX思考とITスキルを持っているかを可視化し、最善手を提案

「DXを推進できる人材がない」ことにより、DXのビジョン、経営戦略、ロードマップを描けない企業が多く、「効果・目的が不明」「目指したい姿が不明瞭」という結果に陥っています。DXのビジョンや経営戦略が曖昧だと、推進メンバーは実施すべき施策の立案がむずかしく、社内意思の統一もままなりません。また、実現に至るロードマップがないと、具体的にどのような施策をどの順番で実行すべきかわからないので、DXが進まない原因となります。

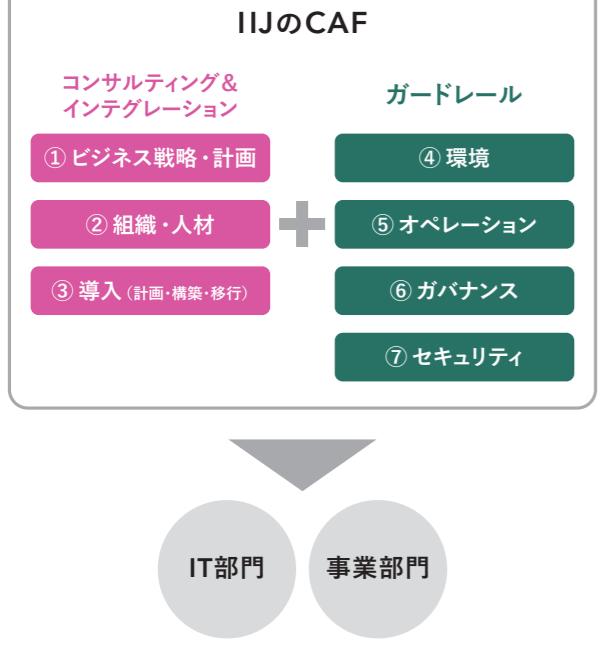
「DXで必要となる開発をリードできる人材がない」のは、「新しいビジネスの創出」や「既存ビジネスの変革」に必須となるシステム開発や情報入手が困難なことに起因します。昨今のDX推進は、従前の個別情報や単独システムの場合とは異なり、多岐のシステムに跨る情報を統合して活用しなければならなかつたり、複数のシステムおよびデータが既存のオンプレミス環境やパブリッククラウド環境（マルチクラウド）に散在しているため、スクラップ＆ビルトによるPoCも容易に実施できなくなっています。また、DXの多くの試みは、ユーザ企業の事業部門・開発部門のメンバーが主体となって試行錯誤しながら進めていくので、クラウドネイティブなアプリのコンテ

「DXを推進できる人材がない」ことにより、DXのビジョン、経営戦略、ロードマップを描けない企業が多く、「効果・目的が不明」「目指したい姿が不明瞭」という結果に陥っています。DXのビジョンや経営戦略が曖昧だと、推進メンバーは実施すべき施策の立案がむずかしく、社内意思の統一もままなりません。また、実現に至るロードマップがないと、具体的にどのような施策をどの順番で実行すべきかわからないので、DXが進まない原因となります。

IIJでは「DXを推進できる人材がない」という課題を克服し、人材を支援するために、①「ビジネス戦略・計画」を立案し、②「組織・人材」の社内体制を提言し、③「導入（計画・構築・移行）」を示すためのコンサルティング＆インテグレーションを実施しています。また「DXで必要となる開発をリードできる人材がない」という課題に対しては、④「環境」、⑤「オペレーション」、⑥「ガバナンス」、⑦「セキュリティ」を統合した「ガードレール」として、各種マネジドサービスを提供しています。（図2）

IIJを成功に導くためのこれら七つの項目を、我々は「クラウド・アドグリーン・フレームワーク（CAF）」と呼んでいます。CAFはアマゾン（AWS）、マ

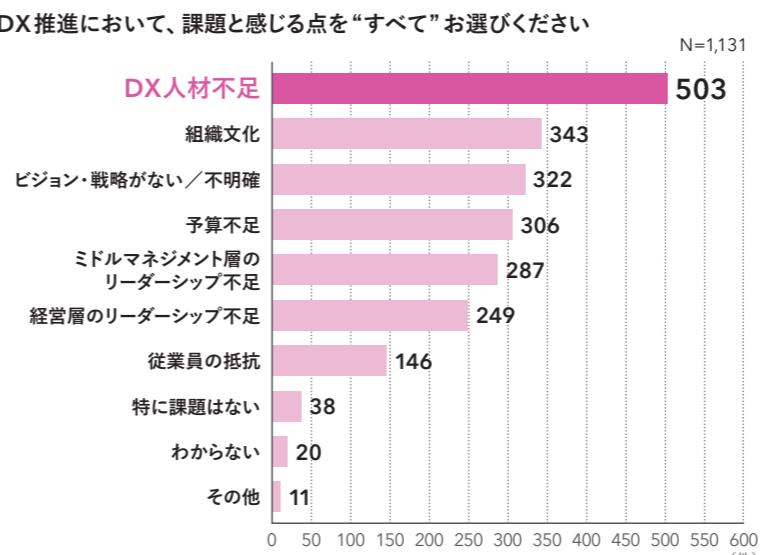
図2 IIJによるDX推進のための支援



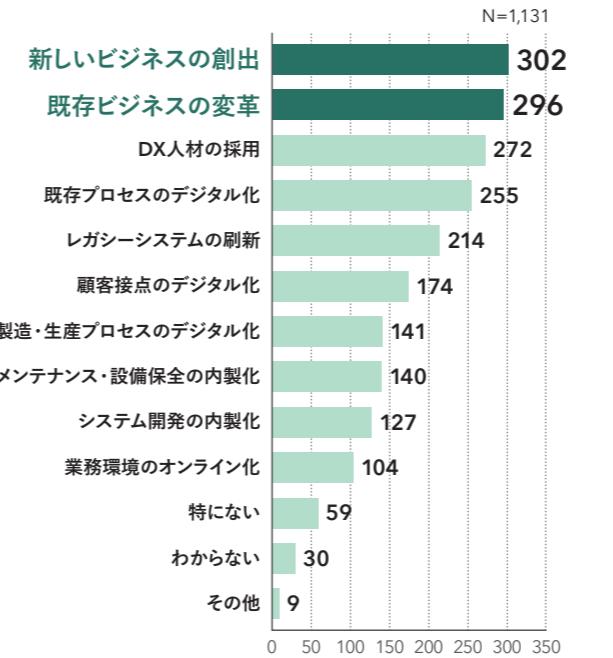
イクロソフト（Azure）、グーグル（Google Cloud）の三大パブリッククラウドからも提唱されていますが、これらを複合したマルチクラウドにおけるCAFは、IIJ独自のフレームワークです。実際、企業のDX推進においては、日常の業務はMicrosoft 365、AI（Azure OpenAI Service）はMicrosoft Azure、データ分析はGoogle Cloud、クラウドネイティブアプリのコンテナ開発はAmazon Web Servicesといった具合にマルチクラウド活用が一般的です。一方、IIJは自社クラウドサービス「IIJ GIO」を提供するなかで、三大パブリッククラウドの導入・活用を幅広く手掛け、各クラウドの特性を熟知し、それぞれのサービスに精通した人材を多数有しています。このようなバックボーンがあるからこそ、個々の企業に最適なCAFを提供できるのです。IIJのCAFを構成するサービスは二〇二五年一月から順次リリースし、企業への提供を開始しています。

本特集では、IIJとともにDXを推進してきたお客様企業のユースケースとあわせて、各社が直面した課題解決のプロセスを紹介します。IIJは企業単独では時に困難なDX推進をサポートし、成功へと導くお手伝いをしたいと考えております。

図1 DX推進に関するアンケート



お勤めの企業のDXの取り組みで、やるべきだと思うが現状できていない項目を“すべて”お選びください。



IIJは一九九二年の創業から、企業のインターネット接続サービスを起點に、OA環境を快適かつ安全に保つデジタルワークプレース領域の各サービスを提供してきました。そして今、人々の暮らしへのITの急速な浸透、ネットワークの驚異的な伸展、AIの急速な進歩などによつてもたらされた現状に対応すべく、デジタルワーク

フレームを拡張したDXプラットフォームの開発・提供に邁進しています。 目下、大多数の企業が自社の命運をかけてDX推進に取り組んでいるにもかかわらず、その多くが苦戦しています。我々の調査によると、DXが進む最大の要因は「人材（スキル）不足」です。具体的には「DXを推進できない最大の要因は「人材（スキル）不足」という課題です。（図1）

DX成功に向けて

DX推進を滞らせている要因——

これは見方を変えると、DXのドライビングフォースと捉えることもできる。 本稿では、DXを成功に導く7つの項目を挙げ、それらを包括するフレームワーク（CAF）の概要を紹介する。

IIJ 取締役 副社長執行役員

北村 公一

何がDXを滞らせているのか？

レースを拡張したDXプラットフォームの開発・提供に邁進しています。

現場が直面する マルチクラウド活用における諸課題

IIJはこれまで多くのクラウド導入・活用に携わるなかで、企業の現場で奔走している担当者（情報システム部門）が共通の課題を抱えている場面に遭遇してきた。ここでは、そうしたマルチクラウド活用に関する“率直なお悩み”を紹介する。

IIJ マーケティング統括本部 サービスプロダクト推進本部 副本部長

井ノ川 俊次



人材不足に揺れる現場

企業のDX推進の中核をなすのが“事業部門におけるマルチクラウド活用”であり、その指針となるのが、クラウド導入を体系的に整理したフレームワーク「CAF（Cloud Adoption Framework）」です。

CAFには、人材・運用・ガバナンス・セキュリティなど複数の観点が含まれていますが、自社のIT環境に対して、これら全ての要素を一度に満たす必要はありません。CAFを念頭に

置きつつ、現状に応じて優先度をつけて段階的に取り組むことで、現実的かつ持続的な進化が可能になります。

しかし多くの企業では、実際の進捗状況と理想の進め方とのあいだのギャップに直面しています。情報システム部門は、複数の業務を抱えてリソースが逼迫しているうえに、事業部門から求められるシステム実装のスピード感と自社の情報資産を守るガバナンスのあいだで板挟みになっているのです。

Case 1: 課題整理が追いつかず、孤立化

DXやIT改革が進まない大きな要因として、そもそも「何から手をつけるべきかわからない」とことが挙げられます。汎用的な情報や成功事例は多く存在しますが、お客さま固有の環境に最適化された情報はほとんどありません。外部パートナーに相談しても、製品の売り込みが優先され、中立的な立場から提案してくれることはまれです。この問題は人材不足によってさらに深刻化します。十分な人員がないため、課題の整理やプライオリティの判断に時間を割けず、日々の

運用対応に追われた結果、DX推進は「理想はわかるが手が回らないため後回し」という状況に陥ります。

IIJでは、このような「何から手をつけたらいいのかわからない」「何をどこまで導入したらいいのか不安」といったお悩みに対して、お客さまと一緒に課題を整理し、解決策を探る「IIJ Sketch & Draw Workshop」を開催しています。本特集の事例1には、このワークショップに参加したお客さまのインタビュー記事を掲載しています。

Case 2: ガイドラインの不在と管理外クラウドの増加

多くの企業で見られるのが、クラウド活用における社内ガイドラインの不在です。事業部門は「AWSでこのシステムを立ち上げたい」「クラウド環境で実験的にサービスを試したい」と考えても、基本的に事業部門はクラウド利用時のセキュリティ設定ルールを持ち合わせていません。情報システム部門に相談しても明確な回答をもらえず、「自部門の責任で対応」となってしまうケースも散見され、結果的に管理外のクラウドサービ

ス利用が増えます。管理外のサービスは、利用者の裁量で構築されるため、セキュリティ設定が統一されず、運用・監視コストが膨らみます。また、管理対象に入れたとしても、対象となるクラウドサービスが多岐にわたるので、情報システム部門は日々の対応に追われ、利用ガイドラインの策定や情報収集に十分な時間を割けません。

こうした課題を支援するためにIIJでは、クラウド利用のルールが整備されていないお客さま向けにクラウド活用ガイドラインの作成支援などを行なっています。

Case 3: 散在したデータの整備不足

DX成功のカギの一つはデータ整備とその活用です。しかし、社内には“そのままでは使えない、扱いにくいデータ”が各部門に散在しており、実際に活用するにはそれらを集約して整える必要がありますが、多くの企業にとって容易なことではありません。事業部門がデータ分析を行ないたいと考えても、異なるシステム・クラウドから収集したデータを分析に適したかたちに整理する作業に時間をとられ、企画などの本来やりたい業務に十分なリソースを割けないという問題が発生します。このような状態が続くと、事業部門の担当者がExcelを手作業で加工するといった運用が常態化し、IT部門には「このデータをこう加工・出力してほしい」といった業務支援・作業代行の依頼が集中します。そもそもデータ整備には専任者が必要ですが、複数業務の兼務や人材不足ゆえに、十分な対応ができない状態が頻発しています。データが整わなければ、DXのゴールを描いても前に進めず、現場のフラストレーションは溜まるばかり……。データ整備は単なる技術的課題ではなく、人材不足による運用負荷とも切り離せない関係にあるのです。

IIJは、このような課題に対して、複数のシステムやクラウド間のデータをスムーズに連携できるIIJクラウドデータプラットフォームサービスを提供しており、本特集の事例4に導入事例を掲載しています。

Case 4: ID管理と運用負荷

マルチクラウド活用にともない、従業員のアカウントやID管理、認証・認可の設定作業がIT部門の大きな負担となっています。SaaSを増やすたびに誰がどの権限を持つのか管理する必要が生じ、組織内の人材流動にも対応しなければなりません。多くの企業では、新卒採用や組織改編などの業務が特定時期に集中したり、入社・異動・退職のたびにアカウントを作成・削除し、権限を調整する作業が発生します。また、SaaSの利用が拡大する一方、事業部門から「早く使いたい」という声が届くと、情報システム部門は間違えられない権限付与の作業に慎重かつ短期間で対応しなければなりません。こうした状態が続くと、情報システム部門の担当者は疲弊し、ID管理のミスや手戻りも増えがちです。その結果、運用負荷やセキュリティリスクが高まり、さらに人材不足が問題解決を遅らせる悪循環に陥ります。

IIJはこのような悩みをもつお客さまに、ID管理、認証・認可に対応するサービスを提供しており、本特集の事例6にID認証に関する導入事例を掲載しています。

で、安心できました。ただ、なかには高い優先度での対応が望ましい部分もあり、万が一、エンドポイントに侵入された際の事後対応強化も含まれていたので、やはりEDR導入は必要との結論に至りました。

糸久 ワークショップを通して、当社には何が十分で何が足りないのか、そして足りないところを埋めていくには何をすべきなのかといった指針を確認できました。ワークショップはEDRを前提としたものではなく、当社固有のセキュリティ状況を可視化したうえで対応を探るという内容だったので、むしろEDRの必要性を強く認識できました。また、すでに対策を講じていた部分が新しい脅威にも対応できるのかといった点はあまり考慮していないなかといつたので、セキュリティ鮮度チェックの結果として、その意識が醸成されたことは新たな発見であり、たいへん有意義でした。

——琉球銀行のDXへの取り組みについて教えてください。

長嶺 銀行においてデジタル化やDXは不可欠です。当行では、デジタル化を通して行内業務の生産性を向上させると考えています。地域の発展がないと、銀行も成長できないからです。

新城 業務を変革していくには専門の組織が必要との考え方から、二〇二三年四月にデジタル業務革新室を設置しました。設置後に取り組んだ事例として、事務量が多い営業店では紙を使う業務もまだまだ残っているので、営業店の業務を変えていく必要性から、二〇二二

—I.Tスキルの向上と意識変革の両面から デジタル人材の育成を図る

株式会社琉球銀行

事例 2

——ワークショップ参加後のEDR導入することにしました。背景には、当部の人的リソース不足がありました。ワークショップ自体は懸案解決に向けたナレッジや対策を明確化するものであり、IIJからサービスの提案などは行なわれません。つまり“営業色のないかたち”でセキュリティを可視化し、気づきを得て、対策のアイデアをつかむことが目標されているのです。ワークショップを通して、EDRは運用も同時に考慮しなければ効果を發揮しない、ということを知りました。そこで、IIJと具体的なサービス導入の話を進めるなかで、当社のリソース問題を解決し、かつIIJの知見と技術を享受するには、SOCサービスも合わせて導入するのがいいという結論になりました。

横 横 SOCサービスは二〇二五年二月に、EDRは三月に導入しました。リソースの面でむずかしいEDRの運用はもちろん、当社の現状に応じた細かなチューニングもすべてIIJに任せられました。また、当社のセキュリティ状況をマッピングした俯瞰図を部内や他部署の情報システム担当者とも共有できたことで、セキュリティ意識の向上にもつながったと感じています。

糸久 とにかくセキュリティに対する安心感が高まつたのが最大の成果です。例えば、社員が怪しげなサイトを開いたナレッジや対策を明確化するものであり、IIJからサービスの提案などは行なわれません。つまり“営業色のないかたち”でセキュリティを可視化し、気づきを得て、対策のアイデアをつかむことが目標されているのです。ワークショップを通して、EDRは運用も同時に考慮しなければ効果を發揮しない、ということを知りました。そこで、IIJと具体的なサービス導入の話を進めるなかで、当社のリソース問題を解決し、かつIIJの知見と技術を享受するには、SOCサービスも合わせて導入するのがいいという結論になりました。

——ワークショップ参加の効果として、IIJと具体的なサービス導入の話を進めるなかで、当社のリソース問題を解決し、かつIIJの知見と技術を享受するには、SOCサービスも合わせて導入するのがいいという結論になりました。

今後のセキュリティ対策の方向性

と——Jへの期待を教えてください。

山田 セキュリティ対策は「鮮度」がポイントですから、実施中の対策が古くなっているのか、常にチェックしていくかたいと 생각ています。IIJではワ

ており、100%信頼しています。導入後も大きな問題は起きておらず、順調に機能しているので、とても助かっています。

横 EDRで外部からの脅威については対応できましたが、シャドーIT対策は力を入れているものの、まだ十分ではありません。今後もIIJとタッグを組みながら、対策を強化していくだけです。IIJの担当者は毎月顔を合わせて、その場で当社のシヤドーITや内部不正への意識も高まっているので、問題はなかったのだろうと安心できます。

糸久 とにかくセキュリティに対する安心感が高まつたのが最大の成果です。例えば、社員が怪しげなサイトを開いたナレッジや対策を明確化するものであり、IIJからサービスの提案などは行なわれません。つまり“営業色のないかたち”でセキュリティを可視化し、気づきを得て、対策のアイデアをつかむことが目標されているのです。ワークショップを通して、EDRは運用も同時に考慮しなければ効果を發揮しない、ということを知りました。そこで、IIJと具体的なサービス導入の話を進めるなかで、当社のリソース問題を解決し、かつIIJの知見と技術を享受するには、SOCサービスも合わせて導入するのがいいという結論になりました。

——参加したワークショップ
IIJ Sketch(スケッチ) & Draw(ドロー) Workshop
<https://www.iij.ad.jp/workshop/>

株式会社琉球銀行
総合企画部デジタル業務革新室
室長
長嶺伸氏



長嶺伸氏



新城航太氏

IIJデジタルカルチャー可視化ソリューションの提供イメージ

インサイトレポート

診断結果をもとに組織の現状を可視化し、課題抽出と対策案を把握できるレポート

- IT/DXテストの受検
- 実態調査アンケートの回答

DXテスト

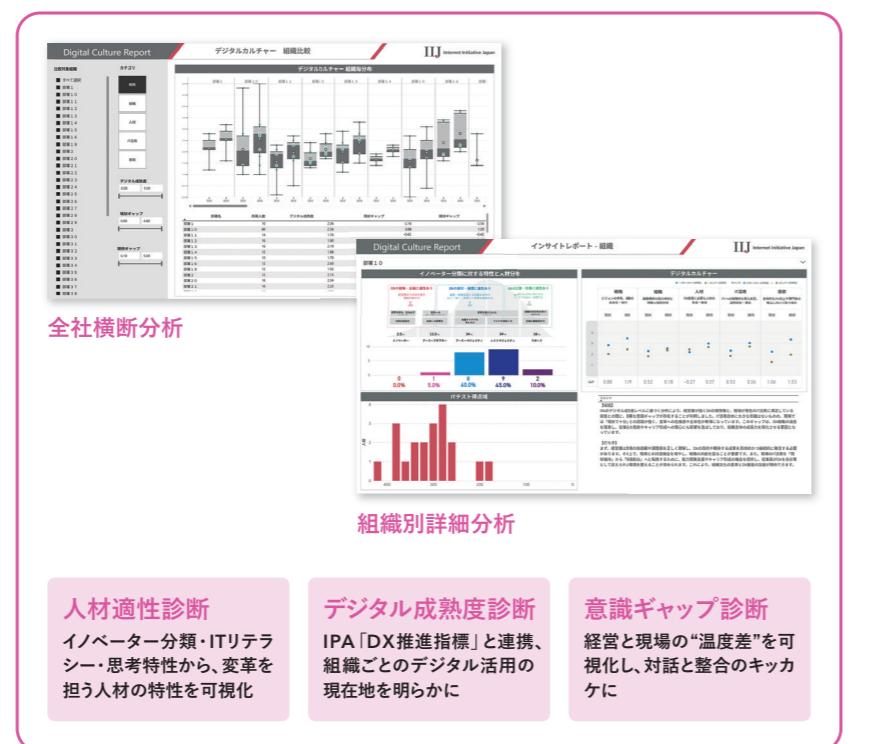
- 必須
- コミュニケーション（社交性）
- 4. 自分に近い選択肢を選んでください。
- よく相手の努力・行動・成功を褒め（苦め）ている
- どちらもあてはある

ITテスト

- 必須
- 1. PCのバッテリーや電源に関して、正しい説明を1つ
- ノートPCを電源ケーブルに接続せずに使うときは、通常と
- ノートPCの場合、バッテリーだけでどのくらいの時間使

実態調査アンケート

- 必須
- このフォームを送信する際に、お客様が、ご自身のお名前やメールアドレスを入力して下さい。
- 実態調査アンケート
- 1. データやデジタル技術活用に関する、経営の方針ですか？
- まったく理解していない

Digitalution
エンジン

- 導入サービス・ソリューション
 - IIJ DX人材アセスメントソリューション
 - IIJデジタルカルチャー可視化ソリューション



株式会社琉球銀行
<https://www.ryugin.co.jp/>
 本店：沖縄県那覇市東町2番1号
 設立：1948年5月1日
 資本金：569億6,700万円
 従業員：1,417人（2025年3月31日）

米軍統治下の1948年5月1日、米国軍政府布令にもとづく特殊銀行として設立。八十二銀行を中心に銀行システムの共同化を進める「じゅうだん会」に所属し、2020年4月、千葉銀行を幹事行とする「TSUBASAアライアンス」に参加。中期経営計画「Value 2023」（2023年4月～）において「地域経済の好循環サイクルを実現し、地域とともに成長する金融グループ」を長期ビジョンに掲げ、「事業基盤の拡大、ESG経営の実践、変革への挑戦」の3つの基本戦略を実践。質の高いコンサルティング、脱炭素化への活動、新ビジネス開拓——これらを実行するための専門人材の育成などを通じた、持続的成長を目指している。

本記事は2025年9月に取材した内容をもとに構成しています。
 記事内のデータや組織名・役職などは取材時のものです。

かで「IIJ DX人材アセスメントソリューション」が我々の要件に合致しました。短い時間で済むことによる受検負担の軽さや、アセスメントで取得できる情報の種類、コストなどが、もつとも良いバランスで提供されていたのです。

新城 営業店も受検するため、受検負担はかなり気にしていました。そこで、

三〇分以内で受検できるサービスを探していたところ、IIJのアセスメントソリューションは全四〇問・約二〇分で受検が完了することがわかりました。

長嶺 二〇二四年八月に実施しました。目標回答率は九割以上で、最終的には97%から回答を得ることができました。現場から不満の声などは聞こえてこなかつたので、負担も少なく実施できましたと考えています。

新城 全体の平均点数が低く、基礎的なITリテラシーを強化すべきだということがわかったので、二〇二五年度から毎月「デジ活」という内製アテストを実施しています。Microsoft TeamsやOutlook、セキュリティなどテーマを決めて、一〇問を出題します。部店ごとに得点を集計して、一位～三位には賞金を出しています！こうした活動も盛り上げていきながら、行員の意識を高めていきたいです。

新城 先に述べた「本部企画人材」についても、プロマネ力、データ活用力、デザイン思考力などを研修を通して養成していく考えです。さらに二〇二五年九月には「データ活用研修」を行ない、データ活用の基礎を学んでもらいました。複数社に話を聞きました。Pythonの活用といったレベル感ではなく、Excelなどのデータ活用を想定し、データ蓄積やデータクレンジングの重要性などの情報でもアセスメントの分析結果を示しながら、資格取得を奨励しています。

新城 資格取得を推進してきたのですが、合意に関する点数も明らかに高かつたのです。ITサポートの資格取得はITリテラシー向上につながることが数値で示されたので、社内のニュースでアセスメントの分析結果を示しながら、資格取得を奨励しています。

新城 データ活用研修を実施する際もデータに話を聞きました。Pythonの活用といつたレベル感ではなく、Excelなどのデータ活用を想定し、データ蓄積やデータクレンジングの重要性などの情報でもアセスメントの分析結果を示しながら、資格取得を奨励しています。

新城 データ活用の基礎を学んでもらいました。複数社に話を聞きました。Pythonの活用といつたレベル感ではなく、Excelなどのデータ活用を想定し、データ蓄積やデータクレンジングの重要性などの情報でもアセスメントの分析結果を示しながら、資格取得を奨励しています。

【導入後の効果】
アセスメントの結果をもとにITリテラシーとマインド変革を推進

【導入後の効果】
アセスメントの結果をもとにITリテラシーとマインド変革を推進

長嶺 一方、興味深い結果もありました。フリーアンケートでは「少しむずかしかった」「わからない関数があつた」といった感想も見られ、レベル設定

が数値で示されたので、社内のニュースでアセスメントの分析結果を示しながら、資格取得を奨励しています。

長嶺 一方、興味深い結果もありました。フリーアンケートでは「少しむずかしかった」「わからない関数があつた」といった感想も見られ、レベル設定

と相互接続する環境を構築しました。

サンデン時代にRSクラウドで使い始めたAWSは、必要に応じて利用が拡大していくことから、会計システムのほか、物流ハンディ管理、その他部門など、さまざまな業務システムで用いられ、提供元が複数ベンダに分かれている状況になつていきました。

——ネットワーク更新とともに使うAW
Sへの接続形態の変更はありました
か？

志塚 AWSは従来、旧ネットワークを提供していたキャリア網か、Direct

Connectによる閉域回線で接続していました。セキュリティ対策と通信品質の確保の両面から、Direct Connectが不可欠だったためです。今回のネット

ワークのリプレースにともない、III J. プライベートバックボーンサービスから Direct Connect で AWS に接続するかたちに移行する必要が生じました。

志塚 いれがや Direct Connect の A
WS 則の取扱いだが、会計システムを
リましたか。

VPC側の収容分には、会話用のソケットを複数用意して、AWS側で複数のアカウントを採用しているAWSのアカウントを採用している

事例 4

事例 4

一元的なデータ活用。プラットフォーム実現のため 複数システムと顧客属性情報データベースを自動連携

ぴあ株式会社
セールスプロモーション局 Webシステム開発部 部長

黑尺石毛

「導入前の課題」

顧客属性などのデータを集約し
複数システムを共通基盤へ

——おもな業務内容と次世代データ活用基盤の概要を教えてください。

の仕組みを考える次世代システム開発局の仕事にも取り組んでいます。

イングシステムは、構築から一五年以上経っていますが、運用・保守コストが高止まりし、改修しようとしても影

喫緊の課題は、システムの開発スピードを上げ、開発・保守コストを下げることでした。さらに、複数のシステムが連携できていなかつたため、「データ活用も十分ではありませんでした。コロナ禍の影響が少し収まつた二二二年頃から「システムをリプレースするなら、どのような次世代システムが必要か?」といったことを考え始め、複数のシステムでデータを共通的に扱えるデータ基盤を作ろうと考えました。今後、さらにデータが重要になつていくなか、さまざまデータを柔軟に扱え、顧客属性情報を簡単に自動連携できる仕組みが必須だと思ったためです。

——どのようなステップでシステム連携を考えましたか？

A portrait of a middle-aged man with short, grey hair and a beard. He is wearing glasses and a blue and white striped button-down shirt. He is gesturing with his hands while speaking, suggesting he is in the middle of a conversation or explanation. The background is a plain, light color.

用していました。会計システムのアカウントから他のシステムやさらに異なる事業者が提供するAWSにつなぐ形態でした。ただ、Direct ConnectについてIIJに調査してもらつたところ、構成の複雑さからリスクがあるということだったので、新たにDirect Connectを収容するAWSアカウントを用意し、そのアカウントをハブにする接続形態を提案されました。構成をシンプルにしてリスクに備えることができるのでIIJの提案を採用し、A

マネージドサービスとして全体を管理してもらえるようになつたので、運用の現場で考慮することが減り、業務がかなり楽になりました。

マルチクラウド体制をとりながら、I-I-J-G-I-Oだけでなく、AWSもI-Jに監視してもらい、アラートを上げたり調査してもらつたりしています。I-I-Jに一元管理してもらうことで、私たちの情報システム部の業務リソースを使うことなく、安定した運用を実現できています。I-I-Jはマネージドサービス、サポート体制とともに強固だと感じています。

AWS上で稼働しているRSクラウドは、コロナ禍による食品流通のビジネスモデルの変化にともない、多くのIoTのデータを収集できるようになります。クラウドを使ってデータを提供することが価値になる世の中を見据えて、その基盤となる業務システムをIIJGIOで安定的に運用しながら、AWSで新しいビジネスモデルにも対応していくつもりです。事業を成長させるための攻めの一手としてIIJと目指しています。

・リテールシステム株式会社
www.sanden-rs.com/
社: 東京都墨田区錦糸1-2-4 アルカウェスト8F
019年7月29日
1億円
760億円(2024年度:連結)

に創立したサンデン株式会社の流通システム事業として「冷やす・あたたかさ技術に据えたビジネスをグローバルに展開。その後、サンデンホールディングスから分社化し、2019年にサンデン・リテールシステムとして独立。主な事業は自動販売機や量販店・飲食店向け冷凍ショーケースを取り扱うコールドチェーン、コンビニエンスストア、ドラッグストア向けのリテールソリューション事業、機器事業、ロジスティック事業など。2021年には、業界初となる冷凍自動販売機「コールドモンスター」の提供を開始した。

は2025年5月に取材した内容をもとに構成しています。
のデータや組織名・役職などは取材時のものです。

生成AIで 新たなビジネス価値を創出。 社内業務にも活用し 金融DXを推進

武重 太郎 氏

主任調査役

大上 記央 氏

副本部長

「導入前の課題」
生成AIのビジネス活用に
早くから着目

—御社は二〇二二年から二年連続で
経済産業省の「デジタルトランスフォ
ーメーション鉱柄(DX鉱柄)」に選定
されました。DXに注力する狙いを教
えてください。

武重 当グループは福岡銀行、熊本銀
行、十八親和銀行、福岡中央銀行、み
んなの銀行からなる地域金融グループ
です。五行のシナジーを発揮し、地域
経済の活性化と発展に尽力しています。
今は人口減少や少子高齢化、スマ
ートフォンの普及などにより、金融機関
を取り巻く環境も大きく変化していま
す。



大上記央氏

す。お客様の多様なニーズと期待に
応えるためには、価値ある金融サービ
スの提供が必須です。それを加速する
ためにDXを推進しています。二〇二
二年四月、私たちが所属するDX推進
本部は、社長直轄の組織として誕生し
ました。現在、総勢約二二〇人で活動
しています。

—DXは内製化を軸に進めていると
うかがいました。

武重 お客様起点でサービスを提供
するには、最新技術にいち早くキャッ
チアップし、開発スピードと柔軟性も
高める必要があります。そのため、内
製によるアジャイル開発にシフトしま
した。二〇二二年度よりスタートした

中期経営計画では、非対面取引を拡充
させる「個人向けアプリ」と「法人ボ
タル」、そしてデジタルとデータを活用
した「SFA(営業支援システム)」を
組んでいます。このプロジェクトもD
X推進本部が中心となって、内製によ
るアジャイル開発で進めています。

—ChatGPTなど生成AIの可能性を
どうのよつに捉えていましたか?

武重 銀行業務は稟議書、提案書など
さまざまな文書を多数作成します。情
報収集やドキュメントの作成において、生成
AIは有用性が高いと考え、ChatGPT
が登場した頃から、業務活用を模索し
ていました。

—ChatGPTをベースとしたMicrosoft
のクラウドサービス「Azure OpenAI
Service」を導入されましたか、導入の
決め手を教えてください。

大上 生成AIのビジネス活用を模索
していた二〇二二年四月、IIJから
「まず社内で使ってみることが大切」と
の提案を受けました。IIJの提案は
使うことを促すだけでなく、運用の定
着、AI活用の社内への浸透、そしてビ
ジネス価値の創出までフェーズを区切
つて進めていく具体的なものでした。し

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

武重 生成AIを銀行業務にどのように
活用していくのか、当社における全
体戦略をまとめました。実は、このロ
ードマップ策定のキッカケになつたの
が、「まず社内で使ってみることが大切」
というIIJの提案でした。利用開始
後、どのタイミングで何をすべきかまで
提示してくれたので、とても参考になり
ました。IIJの提案をもとにしたロード
マップは、大きく二つのフェーズから
構成されています。まずフェーズ1で
は、社内で生成AIを活用し、浸透を

かも、IIJはAzure OpenAI Service
を活用した生成AIのセキュアな活用
環境を構築する技術力も持っています。
ビジネス活用を見据えた段階的なプラ
ットフォームを他社に先駆けて提案してくれたこ
とが決め手になりました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 365の各アプ
リやさまざまなAI機能を活用できる
「Copilot」を将来提供すると公表して
いました。当社は同サービスを有望視
していたため、そうしたニーズにも迅
速に対応できるIIJが協業相手とし
てふさわしいと判断しました。

—生成AIの活用について、将来を
見据えたロードマップも策定されたそ
うですね。

江上 Microsoftとの関係性で言えば、
もう一つ、大きな選定ポイントがあり
ました。今後の拡張性への対応です。
Microsoftは、Microsoft 36



佐々木直人氏



江村裕太氏

導入したサービス・ソリューション IIJ IPサービス



清水建設株式会社
<https://www.shimz.co.jp/>
本社：東京都中央区京橋二丁目16番1号
創業：1804年
資本金：743億6,500万円
連結売上高：2兆55億円（2023年度）
従業員：1万949人（2024年3月末）

「建設事業（建築、土木、海外建設）」を柱に、「不動産開発」「エンジニアリング」「グリーンエネルギー開発」「建物ライフサイクル」「フロンティア」の5分野で事業を展開する大手ゼネコン。創業から220年の歴史を礎とした伝統と技術に加えて、建設をニーズ具現化の一手段として、さまざまなサービスを通して新しい価値を提供する「超建設」というマインドセットを掲げた事業活動を推進している。

本記事は2024年12月に取材した内容をもとに構成しています。
記事内のデータや組織名・役職などは取材時のものです。

用を開始しました。現場では、タブレットやスマートフォンなどを持ち込んで作業しますが、従来はＩＤとパスワードだけでログインできました。ＩＤに切り替わったあとは、ワンタイムパスワードによる多要素認証が可能になり、セキュリティ強度を高めることができました。

仲田 最近では、タブレットで図面を見るだけでなく、AR（拡張現実）やVR（仮想現実）などもクラウドサービスで利用するといったデジタル活用が広がっています。それだけに、端末を利用する際、ワントイムパスワードによる多要素認証でセキュリティが強化されたことは、大きなステップアップ

なシステムやサービスであっても、これまで個別にIDやパスワードを管理しなければなりませんでした。I-IDになつて、そうしたシステムでもシングルサインオン認証が可能になり、従業員にとって利便性が格段に向上しました。

仲田 システムを開発する側にとっても、個別に認証システムをつくったり、管理したりする必要がなくなりました。目立たない基盤ですが、ユーモアから管理者まで皆が楽になつていると感じています。

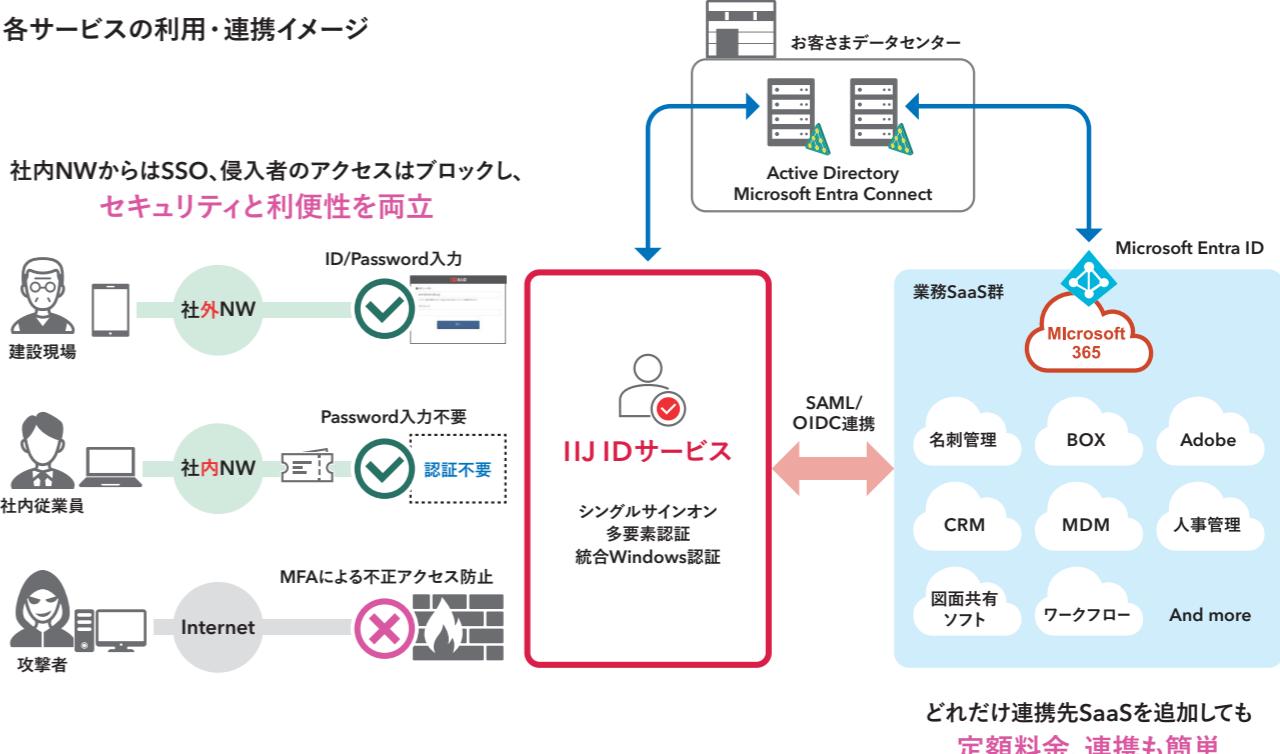
——今後の展望を教えてください。

江村 ゼロトラストを実現するいくつ

かの要素のなかで、ID認証については今回のI-I-J-IDの導入で課題をクリア一できました。次は、二〇年以上前に導入したID管理基盤のリプレースが迫っていて、二〇二五年度から切り替えの具体的な要件定義や製品選定を進める計画です。

仲田 ID管理基盤のなかでもID認証基盤はI-I-J-IDにより構築できましたので、今はID管理の部分に検討を集中できるようになりました。

須田 I-I-Jにはリプレース以外にも多くのところでパートナーとして付き合ってもらっています。今後も世の中の変化を大きな視点で捉え、最適な提案をしてほしいです。



「I I J I D」を採用することに決めました。

須田 三社のIDaaSはいずれもメジャーナーな製品で、多要素認証など機能的な要件は満たしていました。I I I Dを選んだ最大のポイントは、これまで使っていたID認証サービスと規模感が似ていて、コストもリーズナブルだったことです。連携するSaaSが増えてもコスト増にならない料金体系、社員と協力会社を含む数万人規模にも対応できる可用性、セキュリティ対応などを評価しました。さらに、既存サービスの終了までにリプレースが必要だつたため、多様な機能をじっくり検

- 導入後の活用状況を教えてください
佐々木 二〇二三年一月から順次利
用便性向上を実現
- 現場のセキュリティ確保と
「導入後の効果」



須田大士氏



仲田貢志氏

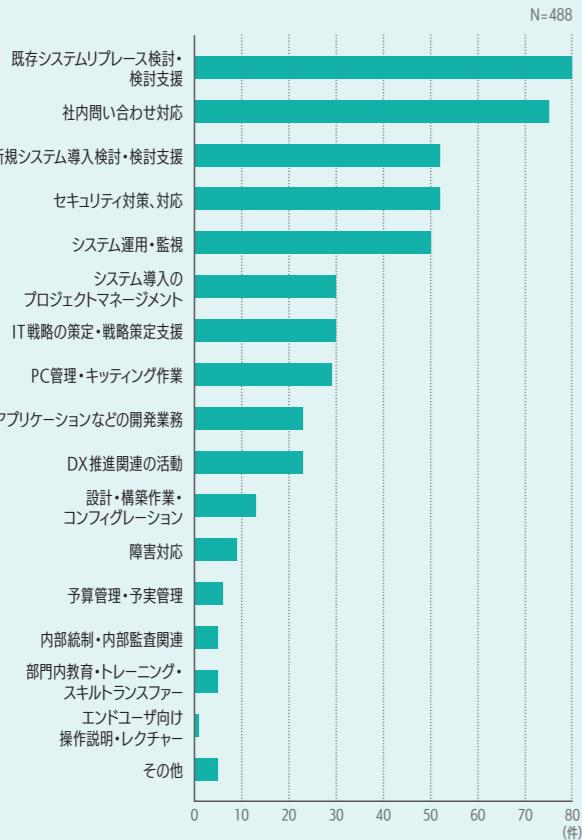
討するより、必要な部分だけを短期間で導入するという方針で選択しました。江村 清水建設ではI I Jの各種サービスを長年利用しており、信頼感があつたことも根底にあります。また、I I J I Dは国産の自社製品で、五〇〇〇社以上の導入実績があり、安心感もありました。海外製品はサービスの変更や為替変動などにともなう料金改定などリスクもありますから。

情シスの「ホンネ」と「リアル」がわかる! 全国情シス実態調査2025

2021年から実施している「全国情シス実態調査」を2025年も実施。
今回は定番の設問に加え、課題解決に向けたアクションの有無や
実際の注力度合なども追跡調査しました。

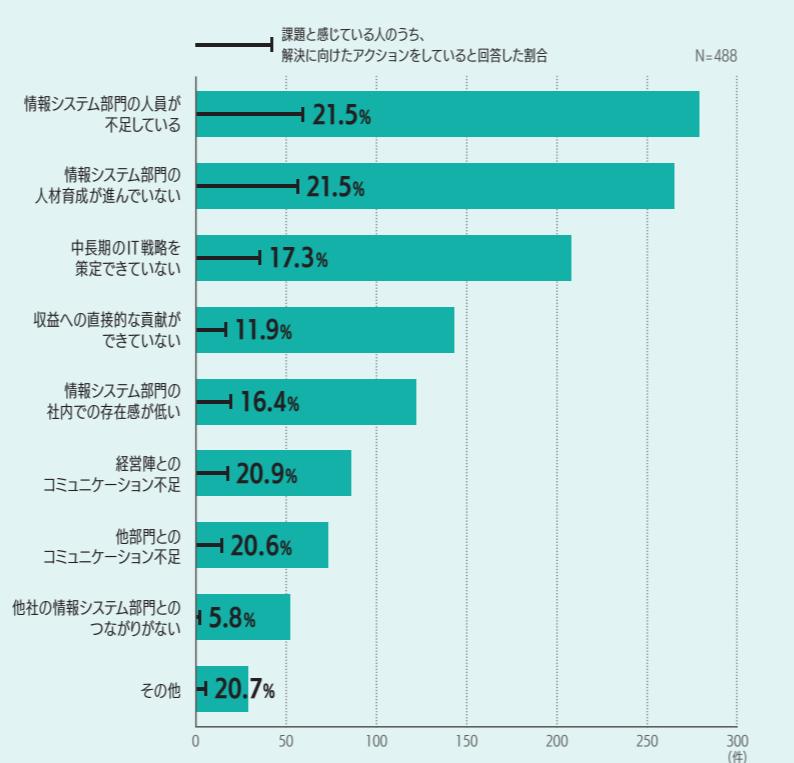
(実施期間: 2025年6月16日~6月23日 / 有効回答数: 488件)

Q1. 直近1年間でもっとも時間を費やした業務を
教えてください。



Q2. 貴社の「情報システム部門」の課題を
最大3つまで教えてください。

また、回答いただいた課題について、
情報システム部門として解決に向けたアクションを
実施できていますか?



- 時間費やしている業務の第1位は「既存システムのリプレース検討・検討支援」で、第2位~第5位も順位は異なるものの、昨年・一昨年と同じ項目がランクインした。
- 役職別に見ると、係長・主任クラスと部長クラスでは「DX推進関連の活動」が上位を占めた。

- 情報システム部門の課題のトップは「人員不足」、次に「人材育成」が続いたが、これらは従業員規模を問わず上位に挙げられている。
- 課題解決に向けたアクションを実施しているのは、最大でも2割前後にとどまることがわかった。

IIJ情シス BOOST UP PROJECT のご紹介

「IIJ情シスBoost-up Project」は、情報システム関連部門で働く皆さんに日々の活動や組織運営のヒントとなる情報を届けます。

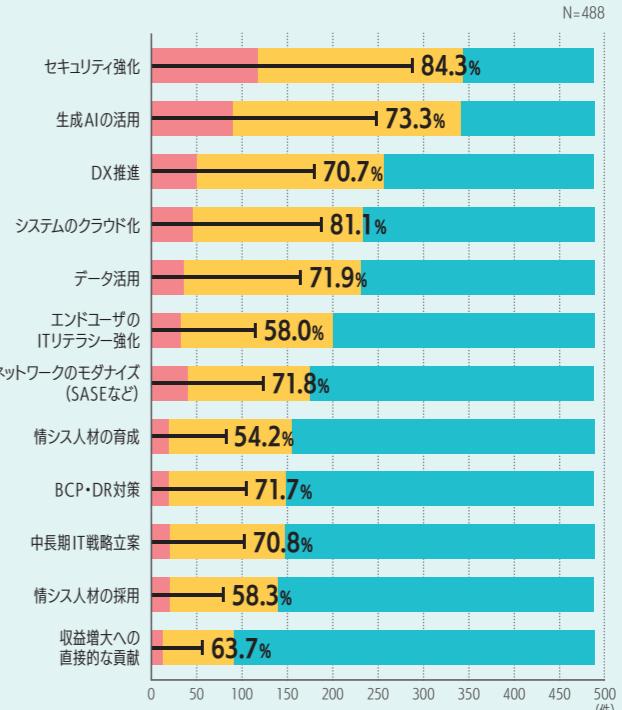
HP <https://www.iij.ad.jp/svcsl/jboost/> × @IIJ_Jboost

- 情シスの「リアル」を知る [法人IT調査レポート](#)
- 視座と「やる気」を高める [モチベートセミナー](#)
- 情シスの課題を議論する [トークセッション](#)
- 他企業の「事例」を知る [座談会・勉強会](#)

Q3. 昨年と比べて、情報システム部門として、右表の項目に対する重要度は変化しましたか?
また、重要度の認識が「上がった」と回答した項目について、情報システム部門としての
注力度合いを教えてください。

■ 非常に上がった ■ 上がった ■ 変わらない/下がった
■ 「非常に上がった」「上がった」と感じている人のうち、注力できていると回答した割合

- 情報システム部門としての重要度が昨年と比較して「上がった」項目の上位は、「セキュリティ強化」と「生成AIの活用」、次いで「DX推進」が続いた。
- 重要度の認識が上がった項目において、注力できている割合がもっとも高かったのは「セキュリティ強化」の84%だった。一方、重要度は上がったが「注力できていない」項目は、第1位から順に「情シス人材の育成」、「エンドユーザーのITリテラシー強化」、「情シス人材の採用」という結果になった。



Q4. ここ数年で経営層や社内の他部署が情報システム部門に
求める役割や期待は変化していると感じますか?
また、「感じる」と回答した方は、
具体的にどのような点が変化していますか?

■ 非常に感じる ■ 感じる ■ どちらでもない ■ あまり感じない ■ 感じない



- 昨年同様、情報システム部門の役割や期待の変化を「感じる」という回答が多かった。
- 変化を感じる点としては、昨年は「DX」関連のコメントが目立ったが、今年は「生成AI」関連のコメントが増加した。

特に多かった“生成AI”と“DX”関連の回答

- データとAIを活用することで、経営に役立つことが期待されている(100~500人/その他・部長クラス)
- 生成AIが世の中に浸透し出していることから、社内の導入や活用に対して、情報システム部がリードしているかなければならない立場として期待されている(5,001~10,000人/消費者サービス/課長クラス)
- 生成AIや業務効率化に関する相談・問い合わせ件数が増加した(1,001~3,000人/その他/課長クラス)
- データや生成AIなどを活用し、事業への直接的な貢献が期待されている(1,001~3,000人/機械・電気製品/課長クラス)
- 収益に直結する具体的なDXの企画や、生成AI・機械学習を活用した収益性の向上が期待されている(100~500人/小売/課長クラス)
- 生成AIを始めとした新技術の活用及びDX推進が期待されている(1,001~3,000人/運輸サービス/係長・主任クラス)
- 近年、会社の方針としてDXやAIの推進が重視されるようになってきている。その推進役として、情報システム部門への期待が高まっていると感じている(100~500人/機械・電気製品/一般社員クラス)
- 従来のシステムやネットワークの整備・運用に加え、DX推進や業務変革の戦略的な役割が増している(10,001人以上/公共サービス/経営層・役員クラス)
- 役員報告の場で、ITやDX施策に関する質疑が増えている(3,001~5,000人/機械・電気製品/部長クラス)
- DXやデータ活用において、IT部門が主導し、ユーザ部門へ積極的に働きかける機会が増えている(501~1,000人/金融/係長・主任クラス)

() 内は、回答者の所属する会社の従業員規模/業種/役職を示す

今年で5回目となる「全国情シス実態調査2025」の調査結果をお届けしました。特設サイト「法人IT調査レポート」では、本稿で取り上げた項目以外にも、今後、強化・習得したいスキルや情シスのお悩みなど、情シス部門のリアルな声を紹介しています。ぜひこちらもご覧ください。



ここ数年の生成AIの進歩には凄まじいものがあります。もう「Chat君」などと気楽に呼べるレベルを超えてしました。これまで膨大な時間を費やしていましたさまざまな調査や企画作りなどは、生成AIをうまく活用すれば、あつという間に出来上がってしまいます。「AIが人間の知的能力を拡張することで、我々を労働から解放し、自由を与えてくれる」——そんな夢物語が、今や現実になりつつあるようです。

ただ、無邪気に生成AIを使い続けることにはリスクもともないです。企業の機密情報が生成AIへの入力を通じて外部に漏れてしまったり、AIの間違った回答を十分に検証しないまま意思決定に使ってしまう……。AIが便利さと自由をもたらしてくれる一方、正しさの保証や機密情報の保持に対する考慮など、新たな支配や依存の構造を生み出しつつあるように感じています。

柄谷行人の交換様式——マルクス批判を超えて

この状況をどう理解すればいいでしょうか？

筆者は、思想家・柄谷行人が提示した「交換様式」という社会分析の枠組みが、AI社会の今後を読み解くうえで重要な示唆を与えてくれると考えています。

柄谷の交換様式論は、カール・マルクスの経済構造論を批判的に継承しつつ、その限界を超えるとしたものです。マルクスは資本主義の発展がもたらす矛盾を分析し、その止揚として共産主義社会を構想しました。しかし、二〇世紀の現実が示したのは、理想の「無階級社会」ではなく、国家への極端な権力の集中と官僚的統制、すなわち新たな強権的「国家体制」の出現でした。

その背景には、シャルル・フーリエやサン＝シモンらが描いた「空想的社会主义」の失敗がありました。彼らは、人々が横行し、社会は崩壊にむかうでしょう。

だけでは統治も安全も保てず、無秩序に陥ってしまいます。Dは、Aの精神——互酬や連帯の感覚——を保ちながら、BとCが提供してきた秩序や効率を分散的な調整と検証によって置き換えることを意味します。柄谷はこれをAの「高次元での回帰」と呼びます。言い換えれば、中心のない協働、しかし無秩序ではない人間社会の関係性を、多声的な調和として制度化しようという構想です。筆者は、AIの設計思想にもDの視点を導入することが不可欠だと考えています。

DをAIに適用する発想

今日のAIは、放置すればCの論理（収益最大化）に吸い寄せられ、巨大プラットフォームがデータとモデルを囲い込みます。国家はBの論理（安全保障・統制）でAIを運用し、監視・検閲・規制の回路に組み込みます。Aに退避すれば「誰も責任を持たない自由」に陥り、誤情報や攻撃が横行し、社会は崩壊にむかうでしょう。

AでもBでもCでも、AIによる人類の自由という理想には近づけません。したがって、AIをDの次元——分散（多様性）+調整（合意形成）+検証（透明性）——で再設計する必要があります。

第一に、単一AI依存を避けることです。ひとつの万能AIが「知の塔」になると、判断は不透明化し、社会はその判断に従属します。

第二に、多声的なAIの並立を確保することです。倫理・学習データ・推論スタイルが異なる複数のAIを並んで用いて、相互に比較・対照・反駁することを可能にします。

第三に、指揮権は利用者側に置くことです。AI同士を束ねる調整層が存在しても、その裁量と最終判断は利用者が握る。これら三点が、AIにおけるDの必要条件だと考えます。



人と空気とインターネット

「交換様式D」へ向けたAIの設計 ——国家と資本に回収されない知の基盤として



IIJ 非常勤顧問
株式会社パロンゴ監査役、その他ICT関連企業のアドバイザー等を兼務
浅羽 登志也

が自発的に協力しあう理想の共同体精神を社会全体に拡張しようとしたのですが、自由と自発性に依拠しすぎたために、秩序と調整の仕組みを欠き、やがて崩壊してしまった。人間が他者と生きる場を「理想的な状態として設計・制御しようとすること」自体が、共同性を破壊してしまったのです。

四つの交換様式——AからDへ

柄谷はこれらの失敗を踏まえたうえで、「交換」に着目し、人間社会の関係のあり方を次の四つに整理します。

A・互酬（原始共同社会の贈与と返礼の関係）

B・再分配（国家や組織が富を集め、再分配する仕組み）

C・商品交換（資本主義における市場と資本の原理）

D・非国家・非資本的な共同性

人類の歴史は、しばしば封建領主や国家による様式Bと市場による様式Cの相互補完で進んできました。秩序をもたらすBは硬直を招き、効率を生むCは格差を拡大します。例えば、インターネットの発展史を振り返ると、まさにこの構図が当てはまります。

インターネットは当初、中央集権的な権力や資本から自由な「サイバースペース」として構想されました。誰もが情報を持ち、対等に発言できる世界——初期のインターネットで我々はまさにAからDを夢想しました。

ところが、利用者と情報量が爆発的に増えるにつれ、混乱と無秩序が生じ、人々は「秩序」と「利便性」を求めてB（国家による統制）とC（巨大プラットフォームによる効率）の論理へ傾き、その結果、GoogleやMetaといった少数の企業が情報の流通を支配し、国家は監視や規制を強めていました。自由な相互接続の理想は、結局BとCの力に回収されたのです。AIもまた、この道を辿る危険があります。一方、DはA（互酬）への単純な回帰ではありません。AIは国家や資本の論理に一方的に回収されにくくなります。

各企業や組織は、自分たちの価値観や知識体系を反映した自組織専用の「オーケストレータAI」を「育てる」ことで、AI利用の主権を内部に取り戻します。これにより、AIは国家や資本の論理に一方的に回収されにくくなります。外部AIの価値を否定せず、自律した内部知性（オーケストレータ）が取捨選択して検証し、必要な時にだけ参照する。結果として、Aの創造性、Bの秩序、Cの効率を、Dの枠組み（分散調整と検証）のもとで高次元に再配置できるのではないか、という仮説です。

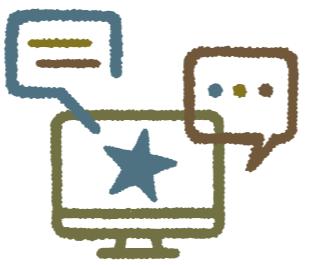
AIが国家と資本の力学に取り込まれないために、Aへの素朴な回帰では足りず、B/Cの装置を分散調整と検証に置き換える制度が必要です。「オーケストレータAI」は、その制度を技術として実装する社会装置なのです。AIは「誰のために、どのような手続きで、いかに検証可能に」働くのか？ 答えは単純ではありませんが、少なくとも「指揮権は社会に残す」——そのための具体的な枠組みを、今から設計していくべきだと考えています。

「オーケストレータAI」という社会装置

AMラジオがFMに移行

IIJ 広報部 技術統括部長

堂前 清隆



日本のラジオ放送には、AM放送・FM放送・短波放送の三種類があります。AM放送を行なっている全国の民間ラジオ放送事業者（NHKを除く）47社のなかで44社が、2028年までにFM放送に転換する方針を掲げています。といっても、すでにAMラジオ各社は「FM補完放送」という名前でAM放送と同じ番組をFM放送で送信しており、さらに一部の事業者は実験的にAM放送を休止しています。今後、正式にAM放送を廃止し、FM放送のみにする方針が示されているのです。

なぜAM放送を廃止するのか？その理由を説明するために、まずラジオにおける電波の使い方を簡単に説明します。ラジオのように電波で音声を送信するうえで重要なのが「周波数」と「変調方式」です。

定義上、周波数は3THz（テラヘルツ）までとされていますが、ラジオでは「中波」（300kHz～3000kHz=0.3MHz～3MHz）、短波（3MHz～30MHz）、超短波（30MHz～300MHz）あたりの電波が使われます。これらの中で基準となる周波数を決め、その電波を少し変化させることで、音声信号を伝達します。

電波を変化させることを「変調（Modulation）」といい、ラジオのような音声では「振幅変調（Amplitude Modulation・AM）」と、周波数変調（Frequency Modulation・FM）が使われます。「AM放送」と呼ばれているのは「中波帯を使った振幅変調（AM）の放送」で、「FM放送」は「超短波帯を使った周波数変調（FM）の放送」です。

電波の性質上、周波数が低い（数字が小さい）ほうが遠くまで届きやすく、AMのほうがFMに比べて送受信のための回路が簡単です。一方、FMは回路が複雑ですが、音質が良く、妨害に強い特性を持っています。

ラジオ技術の開発はAM放送が先行し、日本では「中

波・AM」のラジオ放送が1925年から、「超短波・FM」のラジオ放送は1957年から、それぞれ始まりました。なお、短波放送は電波の特性上、海外にも届きやすいため、当時、日本が統治していた「外地」向けの放送が1934年からAMで行なわれていました。

今回のAM放送からFM放送への転換の目的は、変調方式の変更ではなく、周波数を「中波」から「超短波」に切り替えることが主眼になっています。というのは、電波を送信するアンテナ設備が、中波と超短波では大きく異なるためです。

アンテナは、周波数が低くなるほど長くなります。AM放送に用いられる中波送信用のアンテナは非常に大掛かりで、「親局」と呼ばれる放送局の中心となるアンテナには、地面から垂直に立てられた高さ100mを超える鉄塔が使われます。また、電波の送信効率を上げるために、鉄塔を中心に半径100m～150mの地面に銅線を埋設します。この敷地はある程度、地面に電気が流れるほうがいいので、水気が豊富な河川敷や海辺が好適地とされています。しかし、このような大規模な設備は維持管理の負担が大きく、近年は災害対策の困難さも指摘されています。

一方、FM放送で使われる超短波送信用のアンテナは数mほどです。アンテナを設置するためにある程度の高さのアンテナタワーのようなものは必要ですが、タワー自体は他の用途と共用可能です。また、タワー周辺に広大な空間が必要ないので、AM放送の設備に比べて格段に設置の自由度が高いのです。

民間のAM放送局は放送開始から数十年が経過し、設備も老朽化しています。各事業者は設備更新の負担を考慮し、この機会に中波・AMの設備を廃止したいという意向を持っているのです。



家族と仕事、どちらも大切にできる職場へ ～育休取得がもたらす個人の成長とチームワークレジリエンスの強化～

IIJ 執行役員 経営戦略本部 サステナビリティ委員会 事務局長

川上 かおり

サステナブルな未来に向けた活動にチャレンジしているIIJの社員を紹介する「サステナ・レポート」。第4回は、クラウドサービスのお客さまサポート業務を担当する苗木良憲さんです。



IIJ サービス統括本部
IaaS サポート部
サービスサポート課長
苗木 良憲

—— 育休中の生活で印象に残っていることはありますか？

苗木：一緒にいる時間が増えたことで、一人目の子どもとの距離が縮みました。「パパ」と呼ばれることが増えたのが何よりの喜びでした。仕事から完全に離れる時間を持てたことで、家族との時間の大切さを改めて実感しました。

—— 復帰後、働き方に変化はありましたか？

苗木：「どうすれば早く帰宅できるか」を意識するようになります。業務の優先順位や時間の使い方を見直すキッカケになりました。その結果、仕事の効率化にもつながっています。今は「寝かしつけまで帰る」ことを目標にしています。

—— これから育休を考えている社員にメッセージをお願いします。

苗木：迷惑をかけることを恐れず、その時にしかできない経験を大切にしてほしいです。IIJにはそれを支える環境がありますので、前向きに考えてもらえるとうれしいです。

—— インタビューを通して、育休は個人の成長だけでなく、チーム力の向上にもつながって



いることが伝わってきました。仕事と育児の両立は、企業の持続的な成長に欠かせません。これ

からも気兼ねなく育休をとれる企業風土を築いていければと思います。

—— 職場の反応はいかがでしたか？

苗木：当時の上司には「二人目が生まれるので育休を取りたいです」と半年前に伝えました。少し驚いた様子でしたが、「おめでとう、頑張ってね」と言ってもらいました。

—— 育休取得にあたって、不安はありましたか？

苗木：正直、ありました。リーダーという立場で、誰かに業務を引き継いで3ヶ月後に戻った時、自分がちゃんと情報を見つけることができるか、漠然とした不安はありました。

—— 業務の引き継ぎはどのように進めましたか？

苗木：2名のサブリーダーに業務を分担して引き継ぎました。育成も含めて体制づくりに時間をかけたことで、彼らの成長にもつながりました。復帰後もスムーズに業務に戻ることができ、チームとしての柔軟性も高まったと思います。

*24年度実績。一般企業の平均は40.5%、政府目標は25年度50%以上。

個人戦はもちろん、団体戦の決勝は非常に白熱した試合展開になり、表彰式で流れる「君が代」を聞きながら、チームで個人戦は代りに、団体戦の決勝は非常に重要な位置づけにある世界選手権が一〇日前に開催されたこともあって、出場選手が通常より少ない大会でしたが、それでも普段のワールドカップ（サッカーと違つて年間五回ほど開催）と同じ重要性を持つこの大会で優勝でき、素直にうれしく思います。

今回の優勝については、パラリンピックの次に重要な位置づけにある世界選手権が一〇日前に開催されたこともあって、出場選手が通常より少ない大会でしたが、それでも普段のワールドカップ（サッカーと違つて年間五回ほど開催）と同じ重要性を持つこの大会で優勝でき、素直にうれしく思います。

改めて感謝いたします。



団体メダル獲得後の表彰式（前列中央が筆者）

株式会社 インターネットイニシアティブ

本社 東京都千代田区富士見 2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム
〒102-0071 TEL: 03-5205-4466

関西支社 大阪府大阪市中央区北浜 4-7-28
住友ビルディング第2号館 5F
〒541-0041 TEL: 06-7638-1400

名古屋支社 愛知県名古屋市中村区名駅南 1-24-30
名古屋三井ビルディング本館 4F
〒450-0003 TEL: 052-589-5011

九州支社 福岡県福岡市博多区冷泉町 2-1
博多祇園 M-SQUARE
〒812-0039 TEL: 092-263-8080

北海道支店 北海道札幌市中央区北四条西 4-1
伊藤・加藤ビル 5F
〒060-0004 TEL: 011-218-3311

東北支店 宮城県仙台市青葉区中央 4 丁目 4-19
アーバンネット仙台中央ビル 11F
〒980-0021 TEL: 022-216-5650

横浜支店 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-15-10
YS 新横浜ビル 8F
〒222-0033

北信越支店 富山県富山市牛島新町 5-5 タワー 111 5F
〒930-0856 TEL: 076-443-2605

中四国支店 広島県広島市南区松原町 2-62 広島 JP ビルディング 16F
〒732-0822 TEL: 082-568-2080

沖縄支店 沖縄県那覇市久茂地 1-7-1 琉球リース総合ビル 2F
〒900-0015 TEL: 098-941-0033

新潟営業所 新潟県新潟市中央区南笹口 1-1-54 日生南笹口ビル 7F
〒950-0912 TEL: 025-244-8060

豊田営業所 愛知県豊田市西町 4-25-13 フジカケ鐵鋼ビル 5F
〒471-0025 TEL: 0565-36-4985

IIJ グループ/連結子会社

株式会社 IIJ エンジニアリング
東京都千代田区神田須田町 1-23-1 住友不動産神田ビル 2 号館 15F
〒101-0041 TEL: 03-5205-4000

株式会社 IIJ グローバルソリューションズ
東京都千代田区富士見 2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム
〒102-0071 TEL: 03-6777-5700

株式会社 IIJ プロテック
東京都千代田区富士見 2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム
〒102-0071 TEL: 03-5205-6766

株式会社 トラストネットワークス
東京都千代田区富士見 2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム
〒102-0071 TEL: 03-5205-6490

ネットチャート株式会社
神奈川県横浜市港北区新横浜 2-15-10 YS 新横浜ビル
〒222-0033 TEL: 045-476-1411

IIJ America Inc.
55 East 59th Street, Suite 18C, New York, NY 10022, USA
TEL: +1-212-440-8080

IIJ Europe Limited
1st Floor 80 Cheapside London EC2V 6EE, U.K.
TEL: +44-0-20-7072-2700

IIJ Global Solutions Singapore Pte. Ltd.
160 Paya Lebar Road #03-07 Orion @ Paya Lebar Singapore 409022
TEL: +65-6773-6903

PTC SYSTEM (S) PTE LTD
10 Kallang Avenue #07-12 Aperia Singapore 339510
TEL: +65-6282-0255

艾杰(上海)通信技術有限公司
邮编 200031 上海市徐匯區長樂路 989 号 世纪商貿廣場 3 段 301B-302
TEL: +86-21-8026-1899

コラム vol. 8
—— 広報部 筒島 貴明
車いすフェンシング
筒島 貴明の
個人金メダル獲得 &
史上初の国際大会団体優勝！



先日、インドネシアのスラカルタという都市でワールドカップが開催され、フルーレ個人と団体で二つの金メダル、エペ個人で銀メダルと、合計三つのメダルを獲得しました。——に勤めながら、当時は趣味で始めた競技活動も一〇年近くになりましたが、今回、キャリアで初めて、国際大会で優勝しました！振り返ると、たいした結果も出さずに一〇年もサポートしていただいている会社や多くの方に、改めて感謝いたします。

喜びを共有できたことは感慨深い体験でした。ちなみに、国際大会での団体戦金メダルは、日本のパラフェンシング史上初のことです。

帰国してからも社内や友人に祝勝会を開いてもらったり、練習場でもオリンピックに出場した選手に声をかけてもらったりするなど、メダル獲得の喜びを実感しています。

ただ、世界中のフェンサーが集まった直前の世界選手権ではメダル獲得から遠い結果でしたし、ロサンゼルス・パラリンピックのポイントレースが開始していない準備期間であるのもたしかなことです。しかし、この期間にしっかりと結果を残して、高いランキングでポイントレースを迎えることは重要であり、今後も油断せずに練習を重ねて今回の成績をあげていきたいと思っています。

1 IIJ 2025 TECH アドベントカレンダー

IIJのエンジニアが技術的な情報や取り組みについて執筆している

公式ブログ「IIJ Engineers Blog」では毎年12月、クリスマス（24日）まで毎日コンテンツを投稿し続ける「アドベントカレンダー」を開催しています。

IIJグループの社員が交代で執筆する、さまざまな技術に関するコンテンツをお楽しみください。

開催日：2025年12月1日～2025年12月24日

詳細：<https://eng-blog.iij.ad.jp/adventcalendar2025> (12月1日より公開予定)



2 IIJ グループの海外展開

IIJ グループは世界に事業所を設置しており、海外に進出する日系企業や現地企業のグローバルネットワーク、システム構築・運用、ITプロジェクトマネジメントなどのニーズに総合的にお応えしています。案件のご相談は、営業担当までお気軽にお問い合わせください。

IIJ
IIJ America
IIJ Europe
IIJ Global
PTC
Data Management



表紙の言葉

街のあちこちに灯りがともり、人々の足どりも早まる師走。今号の表紙は、人々や車の往来と賑やかな街の光の重なりをイメージして描きました。冬の冷たい空気と慌ただしさの向こうに、2026年はどんな年になるのだろうと、誰も知らない未来に不安と期待が入り混じります。



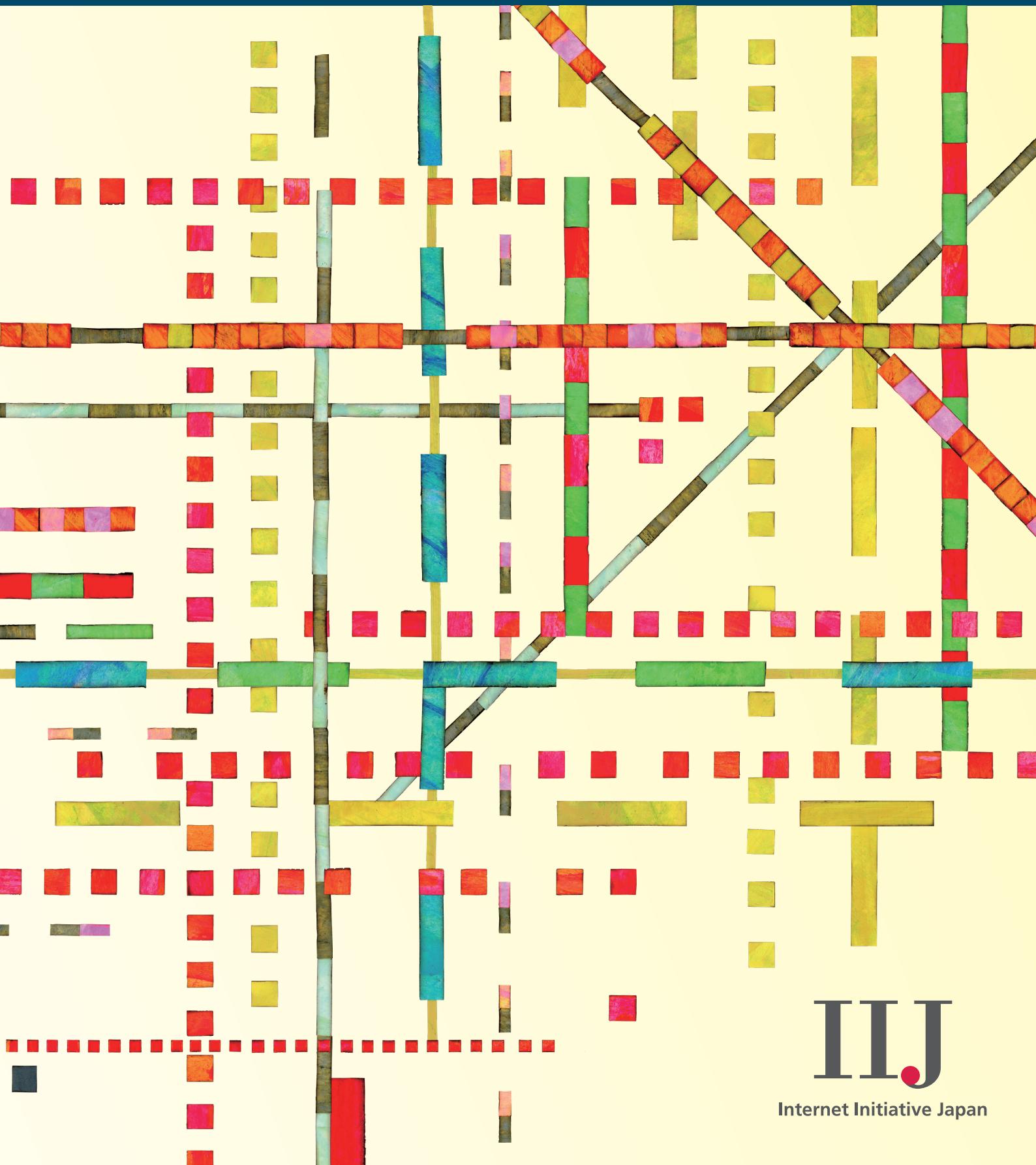
◎IIJ.news 表紙のデザインを壁紙としてダウンロードいただけます。

ぜひご利用ください。
URL: <https://www.iij.ad.jp/news/iijnews/wp/>

◎IIJ.news のバックナンバーをご覧いただけます。
URL: <https://www.iij.ad.jp/iijnews/>

編集後記

一汁一菜で知られる料理研究家の先生が、いつかテレビで紹介していた沖縄の「王朝みそ」。国産大豆・米麹・沖縄の塩（シママース）だけで仕込まれた無添加の天然醸造味噌で、琉球王朝時代から受け継がれる味なのだとか。美味しいです。先月、沖縄旅行のついでに買って帰ろうと意気込み、いくつかスーパーを回ってみたのですが、どの店でも品切れ……。「テレビ離れ」と言われる時代ですが、テレビの力はまだ健在だと思はされました。（T）／番組のステッカー欲しさに生まれて初めてラジオ番組にお便りを送りました。送ろうと考えている時のワクワク感、送った直後から漂うソワソワ感、そして、念願かなって、読まれた瞬間の高揚感は、まるで告白や入試、就活の採用面接と同じような、どこか懐かしく、貴重な体験でした。（M）／国内最大のメタルバンドのフェス「LOUD PARK 2025」に参戦してきました。メタルというジャンルのピークは 80～90 年代と言われており、自分もその頃の楽曲を聞いているのですが、今回のフェスは 2000 年以降に結成されたバンドばかりで、「メタル老人会」は置いてけぼりのラインナップだと話題になっていました。「知らないバンドが多いしなあ」と思っていたのですが、行ってみたら最近のメタルもいいですね。特に「Parkway Drive」というオーストラリアのバンドは、火柱や花火がこれでもかというくらい上がっていて、屋内のさいたまスーパーアリーナでここまでできるのか！と驚きました。熱いぜ、メタル。（S）／家族 LINE で父が「独壇場（どくたんじょう）」という言葉を使っていました。「独壇場（どくたんじょう）」の打ち間違いかな？と思いつけてみたところ、独壇場のほうに存在していたが、漢字や意味の近さから独壇場が多くの人を使われるようになったとのこと。これを誤用と考えるか、言葉は生き物と見るか……日本語はむずかしく、楽しい。（Y）



IIJ

Internet Initiative Japan